

板橋区長期基本計画審議会(第6回)意見メモ一覧

No.	分野	意見
1	防犯・防災	訓練の前に、敷居の低い教育の仕組みと普及が必須。知識の普及と意識づくりを子どもから高齢者に対して徹底する仕組みが重要。自助、共助、公助は、教育によって実現可能と考えます。
2	防犯・防災	安全なまちが全てに優先すると思います。防犯は、「地域の目」が一番の抑止力になるので、スクールガード、見守り活動、その他任意パトロールなどを充実させたいです。また、都の「安心安全街づくり」講座で、実践事例として、「花いっぱい」のまちづくりが防犯につながると学びました。そこで、「緑の板橋・花の板橋」づくりをお願いできればと思います。
3	防犯・防災	水害シミュレーションのDVDを見た時、水害は、堤防をオーバーフローするだけでなく、底部が崩れて起こることもあると知りました。そのような水害も想定した対策をお願いします。
4	防犯・防災	青色防犯パトロールカー(青パト)の台数を増やしてほしいと思います。事務局からの資料説明の中で、「青パト」が防犯に有効であると話がありました。私もこの説明に同意します。近隣は公園が多いこともあるのか、夜間には人通りがほとんどなく、若い女性の独り歩きを、いつも心配しています。自分も夜遅く帰宅する時に、前後に人影のないことがよくありますが、そのようなときに「青パト」の回転灯を見るとほっとします。 先日の新聞で、「青パト」が老朽化しているので、ライオンズクラブから1台が区に寄贈されたという記事を読み、たいへん有り難いことと思いました。同時に、その記事で区の保有台数が4台であることを知りましたが、少ないように思います。寄贈だけに頼らずに、少なくとも8~10台程度の台数を揃えるべきではないでしょうか。
5	防犯・防災	道路の夜間照明を増やしてほしいと思います。自宅近隣の道路の夜間照明が少ないようで、自治会の夜警時に、いつも暗いなど感じています。特に、公園沿いの道路は照明光が拡散するせいか、いっそう暗さを感じます。防犯上の問題もありますので、夜間照明をもっと増やすか、より明るい照明器具(現在は蛍光灯)への交換の検討をお願いします。近くの交差点には、ナトリウムランプがついていて、明るいので安心感があります。
6	防犯・防災	阪神淡路大震災は大都会での震災について、一番教訓を残していると思います。火災よりも倒壊被害が多く、地震から15分間に90%の人が命を落としました。また、家が壊れると火災が起きやすくなることも一つの教訓でした。その教訓をこの政策にしっかりと生かしていただきたく思います。それは「災害予防を強力に推し進める」ことと考えます。ぜひ最優先で計画に明記してほしいと思います。いかなる地震が起きても壊れない住まい、あるいは壊れにくい住まいづくりが基本だと思います。特に高齢者、障がい者、低所得者の住まいへの耐震化は、公的な施策なしに進みません。現在、耐震診断調査や耐震工事への助成が実施されていますが、まだまだ不十分だと思います。また家屋が壊れても火災が起きないように、感震ブレーカーを社会的弱者といわれる人が住む家屋に区の責任で設置をすること。さらにダンス等の下敷きとなって亡くなった人が多い教訓を生かし、高齢者や障がい者だけでなく低所得者への家具転倒防止器具の取り付け助成を拡充することが大事です。災害時・災害後の対策強化を強調するのではなく、ぜひ防災の論点に、区民の生活視点に立った災害予防の計画を強化する論点を入れていただきたいと思います。
	防犯・防災	延焼遮断帯など、そこに現在住んでいる方の犠牲の上で道路を建設するような、大型開発ではなく、区民の住まいや生活道路への公的支援の強化こそ施策のあり方と思っています。
	防犯・防災	①人的被害に男女差があり、女性の犠牲が多いこと、②災害時にはジェンダーによる性別役割分担が強化されることにより、女性の労働負担が増加、他方復興のための経済的資源へのアクセスが不利になること、③女性への暴力の増加など人権が守られにくくなること、④女性は多くの役割を担い、災害を切り抜ける知恵や回復力をもっていること、女性が災害時の不利な状況から脱するには、災害リスク軽減の役割を正當に評価すること、女性が防災の主体となり回復力を高めることが不可欠であることが明らかにされています。阪神淡路大震災、東日本大震災での子どもや女性への暴力は大きな問題として捉え直すべきだと思います。こうしたことを繰り返さないために、防災計画の論点に男女別のニーズの把握、ジェンダーの視点を取り入れることが大切と考えます。

No.	分野	意見
7	防犯・防災	<p>1) 受援体制の整備(震災時の混乱を避ける)</p> <p>2) 地域のコミュニティ力を醸成するような防犯体制の整備(杉並区で実施している花いっぱい運動)。日中、地域で花の世話をしていると、目が光っているので空き巣が少なくなった事例があります。</p> <p>3) 荒川氾濫を想定したタイムラインの設定と可視化</p> <p>4) 中小零細企業のBCP策定(簡易なもの)の目標設定と徹底。震災が起きた時、損失を最小限に抑えることは大事です。</p>
8	都市づくり	<p>・箱モノへのネガティブなイメージがありますが、箱モノが悪いのではなく、コンテンツの問題です。人口が少なくなっているのに、効率的に人が多目的で集まれる場所はやはり必要です。買い物、教育、観光、文化、スポーツ、食など、健康とコミュニケーションをテーマにしたエイジフリーのインフラが、今だからこそあっても良いと思います。もちろん、不要なインフラは減らし、取捨選択が必要です。</p> <p>・自転車にやさしい、安全と健康のためのインフラ整備をしてほしいです。</p> <p>・一番怖いのは火災です。火災に強いまちづくりが必要です。</p> <p>・エネルギー問題を最先端で取り組むまちづくりをしてほしいと思います。</p>
9	都市づくり	<p>審議会の中で、親世帯と子世帯の近居を、というお話がありましたが、そうしたくてもできない方々も多くいらっしゃるはずであり、その中で近居することを区が優遇するようなことは、やや平等性に欠けるのではないかと考えます。</p> <p>近居が増えると、保育、女性の活躍、介護、など、様々な分野で区としてはメリットがあるのかもしれませんが、区民の生活スタイルを公が誘導するような形にはするべきではないと思いますし、それができない人々の方がむしろ弱者なものですから、そちらにこそ目を向けた施策を打つべきだと思います。</p>
10	都市づくり	<p>・高島平＝団地という視点でのまちづくりプランが進められています。高島平3丁目にあるURの分譲マンションでは、早晚建て替えが課題になります(老朽化対策の為)。それを視野に入れてプラン作りをしないと、10年以上先に対応できませんので、高層住宅に集約して、等価交換するなど検討いただければと思います。</p> <p>・三田線の延伸を考えたいです。高島平地区の高齢者施設では、鉄道が一本なので、介護人材が確保できない現状もあります。人が集まりやすいまちづくりをしたいです。</p>
11	都市づくり	<p>自転車道の整備を進めてほしいと思います。区内の自転車道整備延長は、25年度で約1kmです(図表7)。区道距離680kmからは、この数字はいかにも少ないと思います。昨今は死亡事故を伴う自転車事故が増えていますので、長期とは言わずにできるだけ速やかに整備をお願いします。</p> <p>ただ、「自転車道」にも種類があります。一つは「歩道のペンキ区分」で、路面上にペンキで歩道と分けたものです。グリーンホールの脇の道にありますが、ほとんどの「歩行者」が無視して歩いています。というより、分離に気が付いていないようです。二つ目は歩道上に杭を立てて物理的に分離する「歩道の杭区分」方法です。近隣には見かけないのですが、豊島区内の17号線で見かけます。歩行者も自転車側も目立って分かりやすいですが、やはり「無視」もいます。建設費用も割高でしょうし、道幅にも制限されるでしょう。三つめは車道に自転車レーンを設ける「車道の区分」で、豊島区内の17号線では青ペンキで区分されています。</p> <p>個人的には「歩道の杭区分」がベストと思いますが、次善策は「車道の区分」で、費用的にもこの方法が実際的かと思います。しかし、問題は自転車道をふさいで駐車している多数の自動車で、多くは運転席でスマホを使用しています。実際に「車道の区分」の自転車道を走行して、駐車している自動車を車道側から追い越そうとすると、隣の車線を走る自動車に恐怖感を覚えるほどです。結論的には、自転車道として「車道の区分」をもっと進めて欲しいと思います。ただし、違法駐車を取り締まりとセットでの対応が必要です。</p>
12	都市づくり	<p>まちづくりは「物づくり」ではありません。古くなったまちを新たなビルや道路など、ものをつくるという考えだけで進めると、そのまちが築いてきた歴史や風土、伝統の引き継ぎが難しくなります。何よりも、まちづくりを進める手法とは、そこに住んでいる人を犠牲にして新しいまちをつくるのではなく、今そこに住んでいる人たちの生活や住みやすいまちづくりをベースに、一緒に考えるという点が基本と考えます。計画を作成する段階から、いかに地域住民の参画を保障できるかが大事な基本姿勢と考えます。高島平のランドデザインは、区が計画の素案まで作ってから、地域に説明するという、いわゆるトップダウン手法になっています。ぜひその点が是正される区のまちづくりへの姿勢をあるべき姿に明記していただきたいと思います。</p>

No.	分野	意見
13	都市づくり	1)新河岸地域、三園地域等々、交通手段が全くない地域に対する新しい交通システムの確立（ボランティアによるワゴン車の運行等）。 2)少子高齢化の中で、今後空き家の増加が考えられます。空き家バンクを設立し、需要と供給のバランスをはかり、子育て支援等の視点を併せもった基本構想が必要です。
14	都市づくり	サービス付き高齢者住宅の整備をまちづくりの中核とすべきである。 メリット①バリアフリー化②防災力の向上③防犯力の向上 特に外付階段住宅は、災害に弱く、高齢者は避難しづらい。階段からの転落事故、お風呂での事故死等の防止に資する。災害事故、防犯に強い住宅から重視、再考すべきである。
15	都市づくり	環八、中山道等の大きな道路を渡る高齢者が大変多くなってきている。これらの道路を横切って移動するにあたって、にぎわいを駅前に求めるのであれば、その移動手段として、コミュニティバスの拡充を検討すべきである。コンパクトシティを支える交通手段として、コミュニティバスの拡充を求めたいと思います。高齢者の自転車事故の防止にも資すると思います。